

## — 第 67 回院内集会報告 —

- 日時:12月14日(木曜日)11:00-13:00
- 会場:参議院議員会館 B103 会議室
- 講師:中島賢一郎 (1F ウォッチャー\*、福島原発行動隊理事)
- テーマ:【イチエフウォッチャーレポート】から見えてくる廃炉作業の状況(燃料デブリの取出しを中心に)

中島講師の報告とその後の質疑のなかで浮上したのは、「燃料デブリの取出しの工法などで残されている課題の大きさと多さ」(1F ウォッチャー燃料デブリの取り出し準備 2017 年 10 月月例レポート 20 ページ)が愕然とせざるを得ないほどであり、そのことから「ステップ・バイ・ステップのアプローチ」が強調されるに至っていることです。



講演のなかで、改訂されたロードマップ第4版に「早期リスクの低減を図るため、

先行して着手すべき燃料デブリ取り出し工法を設定した上で、取り出しを進めながら徐々に得られる情報に基づいて、柔軟に方向性を調整するステップ・バイ・ステップのアプローチで進める。」(ロードマップ第4版 17 ページ)とされていることが紹介されました。中島講師は「廃炉作業の中心である燃料デブリ取出しの進め方について、大きな変化が見られる。これまでは、一定の時期までに燃料デブリの全量取り出しを実現することを主眼としていた(ゴール重視)のを、取り出し作業の各ステップでの安全確保を最重点におき(プロセス重視)、ステップ・バイ・ステップで進めていこうとしている」と解説しています(本誌次ページの燃料デブリの取り

出し準備月例レポート 2017 年 10 月 13、14 ページを参照)。



(集会紹介者の牧山ひろえ参議院議員)

\* 福島原発行動隊は、2011 年秋、東京電

力が公表している情報・データを中心に、マスメディアの報道も参考にしながら、福島第一原発の現状について分析する専門家チーム「原発ウォッチャー」を設けました。その活動が 2015 年 3 月で休止した後を受けて、中島講師たちが 2015 年 4 月に SVCF からは切り離れたかたちで、「福島第一原発 Watcher (1F-Watcher)」を立ち上げ、【1F-watcher サイト】

<https://1fwatcher.wordpress.com/>

で毎月その結果を公開しています。



中島講師には、2017 年 3 月 16 日の第 59 回院内集会でも「『1F-watcher』の最新の燃料デブリの取出し、使用済み燃料プール対策レポートを読む」と題してお話いただいています

( 参考 )

福島第一原発 Watcher 月例レポート 2017 年 10 月 燃料デブリの取り出し準備(抄録)

<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2017/11/201710-05-debris.pdf>

2-2 「ステップ・バイ・ステップ」(冠水工法の棚上げと気中工法—横アクセスの採用)へ 錯綜する方針と工法

核燃料デブリの取り出し方針の決定に向けての動きは錯綜した状況に見えます。ロードマップ第 3 版では、この夏に取り出し方針を決定、来年度の上半期に最初に取り出しにかかる号機の取り出し方法を決定、2021 年度には最初の号機で取り出しを開始するとされています。・・・水中ロボットによる 3 号機格納容器の内部調査によって、初めてデブリとおぼしきものが映像でとらえられたとはいえ画像等の解析はこれからであり、さらに、原子力損害賠償・廃炉等支援機構がデブリの取り出しの開始に必要としている、燃料デブリの三次元プロファイルの取得・落下構造物・広い範囲の線量分布の把握、燃料デブリ試料の採取などはすべてその先の課題です。

2017 年 5 月 22 日の第 53 回特定原子力施設監視・評価検討会では、東京電力が 2018 年度以降に実施を予定する調査でようやく燃料デブリ取り出しに直接必要な情報が得られるような現状で、この夏にどのように号機ごとの燃料デブリ取り出し方針が決定できるのかという疑問が示され、議論の末、「号機ごとの燃料デブリ取り出し方針決定の時期はロードマップ上 2017 年夏とされている以上、この夏決めざるを得ない。しかし、そこで決められる方針は、現在取得できている情報からは工学的に変更できないような確定的なものにはならず、今後の格納容器内部調査の進展によってなされる手直しを前提としたものになる」ということで了解されたようです。

出典:

- ・廃炉・汚染水対策関係僚等会議 2015 年 6 月 12 日  
「東京電力(株)福島第一原子力発電所の  
廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」  
[http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/ensuitaisakuteam/2015/pdf/0625\\_4\\_1c.pdf](http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/ensuitaisakuteam/2015/pdf/0625_4_1c.pdf)
- ・原子力損害賠償・廃炉等支援機構 2017 年 2 月 16 日  
「第 20 回廃炉等技術委員会議事要旨」  
<http://www.dd.ndf.go.jp/committee/pdf/summary/20170216dscsum.pdf>

・特定原子力施設監視・評価検討会(第53回)資料4 2017 年 5 月 22 日 東京電力資料

「原子炉格納容器内部調査の計画について」

<https://www.nsr.go.jp/data/000189685.pdf>

・第 53 回特定原子力施設監視・評価検討会(平成 29 年 05 月 22 日)

<https://www.youtube.com/watch?v=M5llgDLV5o>

・福島第一原発 Watcher 月例レポート 2017 年 10 月 燃料デブリの取り出し準備

<https://1fwatcher.files.wordpress.com/2017/11/201710-05-debris.pdf>

7 月 27 日に東京電力の増田廃炉・汚染水対策最高責任者は記者会見後の質疑で、3 号機での燃料デブリの目視は大きな一歩だが格納容器内部の状況が詳しく分かっていない状況に変わりはなく、デブリが目視できたからといって突然工法が変わるということにはつながらない。とくに 1 号機の格納容器内部の壊れ方がほとんど分かっていない現状で取り出し方針の決定も難しい。取り出し方針はこの夏、機構が中心に決定するが、工法の決定は来年度である。ロードマップに示されたマイルストーンは尊重されなければならないが、初めに工程ありきでは安全に廃炉を進められないと述べています。

出典:

- ・2017 年 7 月 25 日 共同通信  
「9 月に核燃料の取り出し方針決定福島第 1 原発、ロボット調査」  
<https://this.kiji.is/262419532807112181?c=39546741839462401>
- ・2017 年 7 月 27 日 東京電力 HP 動画アーカイブ  
「2017/7/27(木) 中長期ロードマップ進捗状況について」  
[http://www.tepco.co.jp/tepconews/library/archive-j.html?video\\_uuid=v52166k0&catid=69619](http://www.tepco.co.jp/tepconews/library/archive-j.html?video_uuid=v52166k0&catid=69619)
- ・2017 年 7 月 31 日 第 14 回廃炉・汚染水対策福島評議会説明資料 原子力損害賠償・廃炉等支援機構  
「東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電の廃炉のための技術戦略プラン 2017 要旨(案)について」  
[http://www.dd.ndf.go.jp/activity-report/lecture/pdf/20170731\\_siryos3-1.pdf](http://www.dd.ndf.go.jp/activity-report/lecture/pdf/20170731_siryos3-1.pdf)

## 東電福島復興支援担当者と情報交換

10月14日に行われた「フォーラム わたしたちに何ができるか 東京電力福島第一原子力事故から学ぶ」の準備段階で井出寿一 SVCF 会員(福島発電株式会社浜通り事務所所長、元福島県川内村総務課長)から「現場でご苦労されている東電社員との懇談会を考えたら」との提案がありました。漸く12月7日にそれが実現しました。

名称は「情報懇談会」となりましたが貴重な意見交換の集まりとなりました。この日に東電側からご出席いただいたのは福島復興本社復興調整部エリア責任者の上野政明部長(檜葉町、いわき担当)、同復興調整部エリア責任者補佐の高濱房生副部長(富岡町、北エリア担当)、同社復興推進室富岡町兼川内村グループマネージャーの周藤敦史次長のみなさんでした。「行動隊」側からは安藤博理事長、井出寿一会員、添田恵子会員(白河在住)、杉山隆保理事でした。司会・進行は井出さんで話は始まりました。

まず、上野さんから「硬い言い方ですが、行動隊さんから“協働”のお申し出がありました。加害企業の社員である我々が作業するのが重要であることをまずご理解ください。これだけの被害を与えてしまった我々が元に戻す、人に力を借りて仕事をするのでは立場がない」と話されました。そして、ご持参下さった「10月の復興推進活動の実績」という資料を元に丁寧なご説明をいただきました。「2013年1月に復興本社を設立してからの活動実績の累計は385,754人、今年度中に40



することを目標にしてきました。その内容は①清掃・片付け②除草・除雪③一時帰宅対応④その他(イベント運営

補助・介護研修会等)などです」と報告されました。

その後は“オフレコ”のことなども含めて率直な話し合いました。上野さんは「まだ、まだ帰還する人は少ないが、帰還する住民が増えてきて支援活動に対するニーズも変化しているように感じています」とも言われました。

「行動隊」も事故から6年9か月を経て「収束・廃炉への協力と“福島復興”支援を表裏一体」として捉えています。が「“福島復興”支援」といっても実際は双葉郡の双葉町、大熊町、浪江町、檜葉町、富岡町、広野町、川内村、葛尾村の八町村と南相馬市が対象になると思われます。現在東電として行っている支援作業としては、草取りなどの仕事が多いとのこと。

営農再開にも協力されています。このところ高齢の帰還者が「生きがい農業」に取り組んでいることが新聞報道などで良く見受けられます。



東電のみなさまの活動は、放射線の知見を活かした線量測定などにも及んでいます。JRが常磐線の全線開通をめざしているので駅や線路の放射線量の測定も引き受けています。

「行動隊」からの「住民からの要望をどのようにして把握しているのか」という質問には「行政の広報やボランティアセンターなどとの連携に力をいれている」と回答されました。“見回り隊”を組織したり、“青パト”という車両も展開されているとのこと。

杉山隆保

## 【 1/19 に東電 1F 見学 】

東京など首都圏 8

年明けの1月19日(金曜)、事故から7年になろうとする東京電力福島第一原子力発電所(1F)を見学します。

11月半ばに12月15日を締切り日として参加者募集を始めたところ、早くも11月末には応募者が募集定員の20人を超えました。やむなく1F地元福島の方々と遠路四国、広島からの応募者を優先し、首都圏などの5人ほどの方には「次の機会に」ということで諦めていただきました。

杉山隆保理事をリーダーとして以下の皆さんが見学に向かわれます。

白河、郡山など福島	7
四国、広島	2
茨城、宮城	3



2時間ほどの1F構内見学(東電関係者への質問を含む)を終えたあと、地元ボランティア団体メンバーなどとの懇談会を予定しています。

この見学行と期を一にして、10月12日の郡山集会を機に行ったのと同様の**第2回非常招集訓練**を実施します。年明けにその予告をメール配信いたします。なるべく多くの方の参加を期待しています。

事務局長 安藤博

### 連絡会議にご参加ください！

SVCF事務局では、毎週1回、事務運営を始め、プロジェクト事業の進捗確認をするために、午前10時30分～正午に連絡会議を開催しています。この連絡会議は行動隊(賛助会員も含む)のメンバーなら、どなたでも参加できます。多くの皆様のご参加をお待ちしていますので、ご都合をおつけいただきご参加ください。

#### 【1月日程】

- 12(金)10:30 連絡会議(事務所)
- 18(木)10:30 連絡会議(事務所)
- 19(金)東電 1F 見学  
第2回非常招集訓練
- 25(木)11:00 院内集会(参議院議員会館)「東電 1F 見学報告」  
13:30 連絡会議(参議院議員会館)  
連絡会議終了後、SVCF 通信 94号発行(郵送、メール配信、衆・参議員ポスティング)
- 28(日)10:30 週末連絡会議(事務所)

